

第3回 真駒内駅前地区まちづくり検討委員会 書面会議

所属： 北海道中央バス（株）

委員氏名： 荒井 征人 委員

【報告事項】 真駒内中学校及び真駒内桜山小学校の一体整備について

- 移転後の中学校の場所は校区としてはどうなるのか。

<事務局>

- 今回の移転により真駒内中学校が校区のより中心に近づくことになり、大部分の生徒にとって、より通いやすい場所となります。（教育委員会）

【議題】 再編コンセプトの整理について

- 地域協議会の意見を見ると、バス待ちの時も含めて、何か駅前で時間をつぶせるような場所が欲しいというのが大きく言えそうである。
- 地域の大きな関心事は次に出す施設配置計画であろう。
- 商業施設は大きな駐車場がないと賑わいを出せない時代だと思うが、真駒内は南区の結節点として公共交通が集中しており、真駒内に人が集まる環境にはなっていると思う。うまく活かしていくことが重要。
- ドライバー不足もあるので、将来的には都心までの長い路線ではなく真駒内駅までの短絡化ということになっていくと思う。

<事務局>

- 現在通過型となっている真駒内駅前を、滞留・交流型にしていくということが、基本的な考え方であり、これをどのように実現していくかが重要であると考えています。
- 今後の高齢化を見据えると、自家用車に頼らず公共交通で生活利便機能へアクセスできるような環境を整えることが重要になると認識しており、昨今のバス事業の動向を踏まえると、南区民の生活利便を支える面での、真駒内駅前地区が果たすべき役割は大きくなるものと考えております。
- 今後は、これらの視点を持ちながら、具体的な施設配置計画を検討してまいりたいと考えております。

※特に（教育委員会）と記載した以外は、都市計画部からの回答。以下同じ。

第3回 真駒内駅前地区まちづくり検討委員会 書面会議

所属： 室蘭工業大学

委員氏名： 有村 幹治 委員

【報告事項】 真駒内中学校及び真駒内桜山小学校の一体整備について

- (特になし)

<事務局>

- (特になし)

【議題】 再編コンセプトの整理について

- 交通政策審議会交通体系分科会地域公共交通部会では、地方公共団体による「地域公共交通計画（仮称）」作成の努力義務化が謳われている。札幌全体も必要であろうが、エリア単位の将来のモビリティの姿を検討する時期に来ている。真駒内駅をどのように位置づけるか。
- 新たな駅前は、地域の将来変化を見据えて、今後必要とさせる交通機能を導入したコンセプトとなる。南区全体と真駒内地区の将来人口推計の違いの解釈が必要。真駒内駅周辺と南区の後背圏では人口減少・高齢化の推移状況が異なる。後背圏は真駒内駅地区と比較して高齢化の進行が速く、今後、免許返納等により自家用車による移動に頼れなくなる住民が増加する。公共交通で後背圏の生活・移動を支える仕組みを現段階から検討すべき。地下鉄南北線の南の端末駅であり、大きな後背圏を支える真駒内駅の役割は大きい。
- 運転手不足等、交通事業者を取り巻く環境も変化している。基軸としての地下鉄、フィーダーとしてのバスの導入等、地域全体での公共交通の役割分担も視野に入れる必要がある。
- MaaS (Mobility as a Service) の展開を見据えた地下鉄駅の機能について検討すべき。併せて札幌市の公共交通のオープンデータ化施策も検討すべき。データとハードインフラは連動する。駅構内のデジタルサイネージ等、データの活用方策を示す時期にきている。MaaS の統合レベル (情報、決済、サービス、政策が統合化) の第一歩である公共交通の情報の統合化は必須。
- 駅の賑わいを考えると、可能な限り、人の動線上に商業機能が配置されている状況が望ましい。
- 真駒内駅パークアンドライド駐車場の利用状況について確認したい。
- 真駒内は豊平川のサイクリングロードへのアクセスが非常に良い場所にある。駅周辺の移動環境づくりの一環として、駅前のみどりの軸の部分で繋がるようなことが出来ればよい。健康まちづくりにも繋がる。

<事務局>

- 今後の高齢化を見据えると、自家用車に頼らず公共交通で生活利便機能へアクセスできるような環境を整えることが重要になると認識しており、昨今のバス事業の動向を踏まえると、南区民の生活利便を支える面での、真駒内駅前地区が果たすべき役割は大きくなるものと考えております。今後は頂いた情報の統合化に関するご意見も踏まえながら検討を進めてまいります。
- 人の流れを生み出す観点から、商業機能と交通結節機能は密接な関係性があると考えており、再編コンセプトイメージにおける相互間の矢印はそのような関係性を表現したものです。
- パークアンドライド駐車場については、3月19日現在で設置台数150台のうち月極として最大115台(残りは時間貸)としており、このうち113台が契約中となっております。ただし、月極と時間貸の台数配分については、需要に応じて柔軟に運用しているため固定ではありません。
- 自転車については公共交通を補完する側面を持っていることから、頂いたご意見も今後の検討の中で活かしていきたいと考えております。

第3回 真駒内駅前地区まちづくり検討委員会 書面会議

所属： 北海学園大学

委員氏名： 岡本 浩一 委員

【報告事項】 真駒内中学校及び真駒内桜山小学校の一体整備について

- 教育委員会と情報交換を密にして、移転および解体など当該エリアの検討プロセスや具体の工期設定等に著しい影響を及ぼすようなことがないよう、随時、進捗の確認を徹底することが大切。

<事務局>

- この一体整備の時期と、これまで想定していた真駒内中学校の建替時期には大きな差はなく、現時点で駅前地区の事業スケジュールに大きな影響を与えるものではないと考えております。今後も検討の進捗に合わせて、教育委員会と都市計画部で連携を密に情報交換してまいります。

【議題】 再編コンセプトの整理について

- 「みどり」の存在は、よいと思うが真駒内特有ではなく道内どこでも該当するので、魅力ポイントではなく必須事項と捉えるべき。駅前通のみどりが当該地区内に向かってしみ出すようなイメージを実現することも大切。
- 真駒内にどういう存在感をもってほしいか、が大事だと考える。例えば、後背圏に芸術の森や光塩学園がある現状を踏まえて、アート・芸術の要素を強めることも考えられる。
- 作品の創作、音楽、スイーツなど、どれも創造的・芸術的な価値を含むことから、クリエイティブ分野で存在感を示すような方向付けもよいかも知れない。何かを生み出すことを刺激するような環境づくりの素地はあると思う。
- 三笠高校のように、真駒内地区内で学ぶ学生さんたちが、何か（例えばスイーツなど）を調理や創作して、販売（実習等の一環でも）するようなスタイルも考えられる。
- 創成スクエアのように、図書もあるけど魅力の核は「集まれる場所」というスタイルもある。訪れる大義（読書・学習等）があつて、実際には「人が気軽に集まれる空間」と、大義なりに「個々人でも過ごせる空間」が両立できる仕立て。
- 家電販売やカフェ機能等と巧みにコラボする蔦屋（道内では郊外型が主流なので自動車での集客がネックになりそうであるが…）のような、同じ空間に複数の機能が混ざり合うことで、利用者の属性や使用時間がよい意味で輻輳する機能配置を考えてみてはどうか。ただし、白石区複合庁舎の二の舞は絶対に回避すべき。
- いずれにしても、真駒内にもってほしい存在感を明確にするのと同時に、当該地区内でどのような暮らしの場面や過ごし方を実現したいのか、なるべく具体的にしておくことが重要。

<事務局>

- 基本方針1において「“地域独自の魅力を活かした特徴あるまち”の拠点」としているとおおり、他の地域交流拠点とは異なる真駒内らしさや特色をどのように出していくかが重要であると考えております。ご意見頂いたクリエイティブ分野についてもその要素として考えられると認識しております。
- 今後、ご意見頂いた内容や地域からの声等を参考にしながら、利便を高め、かつ滞留を創出するような機能とその組み合わせについて検討していきたいと考えております。

第3回 真駒内駅前地区まちづくり検討委員会 書面会議

所属： 札幌ハイヤー協会

委員氏名： 梶 重雄 委員

【報告事項】 真駒内中学校及び真駒内桜山小学校の一体整備について

- なぜこのタイミングで急にこういった一体整備の話が出てきたのか。
- 駅前にスペースが出来たことは良いことだと思うが、中学校が遠くなったりする児童も出てくるのではないかと。地域住民への説明はどのように考えているのか。

<事務局>

- 真駒内中学校と真駒内桜山小学校については、改築が同時期であることから、児童生徒が互いの施設を利用することが可能となる小中一体整備について検討してきました。本年2月6日に「札幌市小中一貫した教育基本方針」が策定となったことで、当該方針の中にある小中一貫校化の検討を見据えることもできることから、両校を一体的に整備することとし、このタイミングでの公表となりました（教育委員会）。
- 両校の校区はほぼ一致しており、小学校敷地の方がより校区の中心に近くなります。地域住民への説明としましては、両校の保護者あての文書や町内会への回覧等により、お知らせしていきます。今後は、改築の基本設計の内容等について、住民説明会の開催を予定しています（教育委員会）。

【議題】 再編コンセプトの整理について

- 前回の委員会では、民間事業者としてはなかなか二の足を踏んでしまうとのことであったが、土地が広がったことで民間事業者の感触としてはどうなのか。前回委員会でも発言したが、やはり駅から動線を2階レベルで直結にするようなことも考えるべきで、そうすれば事業者としても意欲が高まってくると思う。
- 再編コンセプトは良いと思うが、にぎわいをつくっていく方向で、いかに地域の方々の理解を得て、まとめていけるかが重要。

<事務局>

- 追加の民間事業者ヒアリングについては、現在取りまとめ中であり、あくまで中間報告ということになりますが、旧中学校エリアについては、駅からの距離や敷地面積等の面から民間の需要が弱い傾向があるようです。
- 再編コンセプトのイメージに記載した大きな青矢印のとおり、駅から人をいかに誘導してくるかといった観点は民間の参入意欲を高める重要な要素になると考えております。その手法として、2階レベルでの接続について前回もご意見頂いていたところであり、次回以降の検討委員会で、駅から人を誘導する具体的な方法について、検討を深めていきたいと考えております。
- 前回お示ししたとおり、昨年実施した意識調査において、南区民及び真駒内住民の多くは「生活利便の向上」を望んでいる傾向となっており、概ねこの方向性は合致しているものと認識しています。このような方向性を基本に持ちながら、地域の方々への情報提供や地域協議会をはじめとする地域意見の収集について、より丁寧に進めていきたいと考えております。

第3回 真駒内駅前地区まちづくり検討委員会 書面会議

所属： 札幌市立大学

委員氏名： 片山 めぐみ 委員

【報告事項】 真駒内中学校及び真駒内桜山小学校の一体整備について

- 中学校が移転するのであれば様々な可能性が広がる。

<事務局>

- 土地利用の可能性が広がることから、当該地の土地利用については、これまでの議論や追加の民間事業者ヒアリング調査の結果等も考慮したうえで、公共と民間でどのように土地を使っていくのが良いか、次回の委員会において詳細に検討してまいりたいと考えています。

【議題】 再編コンセプトの整理について

- 駅裏の桜山は重要な地域資源であるので何か活かすようなことはできないか。
- コンセプトイメージにある「人の誘導」を具体的にはどのように実現していくか、そこが重要。
- 民活事業者を公募等で決めていくときに、きちんとそういった動線をつくってくれるような、条件付けを考えていかなければならない。
- 「生活利便施設」や「人が集まる場」、「コミュニティ空間」の方向性については、若者や学生、子どもだけでなく、高齢者や子育て（介護）世代も含めて、各世代にとって「利便とは？」「求められる交流と空間とは？」といった、もう一段階深めた視点が必要。これによって具体的にどう作るかが見えてくる。
- 若年人口を増やすだけでなく、子供から高齢者（生まれてから亡くなる）までが快適に暮らし、互いに支援し合えるまちづくりのプラットフォームを課題と捉えるべきである。
- 景観の議論をするため、今回は、資料に駅前通りの景観写真があると良い（駅から川側への通景写真と川側から駅側への通景写真）。

<事務局>

- 桜山は北海道の保健保安林でもあり直接整備するというのは難しいと考えていますが、例えば既存の桜山散策路の入り口を意識した街区内の動線等は考えられます。
- 「人を誘導」する動線をどう実現するかについて次回以降の検討委員会で検討を深めていきたいと考えております。
- また、再編区域内の動線の詳細については、民間公募段階に条件付けするものになりますが、現時点においては、この条件付けにうまくつなげられるよう、まちづくり計画において根幹の考え方の整理を行っておく必要があると考えております。
- 子育て世代も含めた多様な世代に向けた魅力をつくっていく必要があると考えており、具体的な人々の生活スタイルを想定しながら検討していくことが重要であると考えております。
- 駅前地区で導入する具体的な機能とその配置が見えてきた段階で、周辺との関係性を踏まえた「建物の設え」の考え方について議論を行うことを想定しており、その段階で景観形成についての議論が出来るよう進めていきたいと考えております。

第3回 真駒内駅前地区まちづくり検討委員会 書面会議

所属： (独)都市再生機構

委員氏名： 木村 仁紀 委員

【報告事項】 真駒内中学校及び真駒内桜山小学校の一体整備について

- (特になし)

<事務局>

- (特になし)

【議題】 再編コンセプトの整理について

- 再編コンセプトのイメージについて、これまでの議論を踏まえ上手く内容が整理されていると思うが、同時にどこの街にもあるような普遍的な内容になっていると感じる。自然(緑)との近さなど、真駒内の魅力を活かした真駒内ならではの(=真駒内らしさ)のコンセプトも積極的に取り入れてはいかがか。

<事務局>

- これまで地域の方々から頂いてきたご意見からも、駅前通の街路樹や桜山を望む景観は、真駒内特有の資源であると認識しております。
- 基本方針1において「“地域独自の魅力を活かした特徴あるまち”の拠点」としているとおおり、他の地域交流拠点とは異なる真駒内らしさや特色をどのように出していくかが重要であると考えています。
- みどりに関する再編コンセプトについては、今後の地域協議会における議論等も踏まえながら、より真駒内らしい表現を検討してまいります。

第3回 真駒内駅前地区まちづくり検討委員会 書面会議

所属： 北海道建設部

委員氏名： 菅原 誠 委員

【報告事項】 真駒内中学校及び真駒内桜山小学校の一体整備について

- 中学校エリアの土地が空くことで、具体的にはどのような機能を導入していくのが重要。単に区役所だけではない議論も必要になるのではないか。

<事務局>

- 旧中学校エリアの土地利用については、これまでの議論や追加の民間事業者ヒアリング調査の結果等も考慮したうえで、公共と民間でどのように土地を使っていくのが良いか、次回の委員会において詳細に検討してまいりたいと考えています。

【議題】 再編コンセプトの整理について

- これまでのまとめとしてこの様になるのは理解できる。
- 行政と民活でお互いに出資してまちづくりをリードしながらやっていくということだと思う。
- 一方で地域にスケールダウンしたものをやっていくことも重要で、周辺との関係性の中で、生活のバックアップとして何が必要かという視点から、意見を貰っていくことも重要。
- 市の事業性という面と、民間事業者の意欲を向上させていくという面を併せてテクニカルに考えていかなければならない。

<事務局>

- 駅前地区に配置する機能とその周辺部の機能との役割分担等も考慮する必要があると考えております。これについては、再編コンセプトイメージに記載しているとおり、地域全体を先導する拠点として駅前地区を捉え、イメージ内の矢印にあるように、効果を周辺地域へ波及させていくという考え方としております。
- 民間の力をより効果的に引き出していく視点も、この事業の実現に向けては重要になってくるものと考えており、民間の参入意欲を高める方法等について、施設配置計画と併せて検討してまいります。

第3回 真駒内駅前地区まちづくり検討委員会 書面会議

所属： (株)日本政策投資銀行

委員氏名： 廣瀬 真幸

【報告事項】 真駒内中学校及び真駒内桜山小学校の一体整備について

- 真駒内中学校の学区として、移転することで児童への影響は大丈夫なのか。
- にぎわいが創出できるエリアが広がったということだと思うが、問題はこの土地をどういう使い方をするかであると思う。

<事務局>

- 今回の移転により真駒内中学校が校区のより中心に近づくことになり、大部分の生徒にとって、より通いやすい場所となります。また、小中学校を一体整備することにより、児童生徒が互いの施設を利用することが可能となるとともに、小中一貫校化の検討も見据えることができるなど、より良い教育環境を確保できると考えております（教育委員会）。
- 旧中学校エリアの土地利用については、これまでの議論や追加の民間事業者ヒアリング調査の結果等も考慮したうえで、公共と民間でどのように土地を使っていくのが良いか、次回の委員会において詳細に検討してまいりたいと考えています。

【議題】 再編コンセプトの整理について

- 新しい施設を建てると最初は目新しいが、年月の経過と共にどうしても古臭くなってしまふ。巨大な施設を建ててしまふと後から建替えにくくなるため、時代の変化に合わせて施設の中身が入れ替えられるようにしていくような考えが必要になるのではないか。
- 若い人が継続的に入ってくるようなまちにしないと活力が失われて行ってしまう。
- 住んでいる人以外にも観光等の「交流人口」を増やしていくことが重要で、真駒内はスキー等レジャーの玄関口として、南や西に行くには便利な場所であると思う。その中に宿泊施設があってもいいと思うし、そういったことから住んでみたいと思う人も増えてくるのではないか。
- 「駅前にふさわしい公共空間」とあるが、これは単なる空間整備ではなく、例えば地場の認知されていないサービスやものづくりに、地域商社のようなところがスポットを当てて発信し、人と人をつなぎ、新たな産業を生み出すようなものを目指すとより良いものになると思う。

<事務局>

- 将来の人口減少社会を見据えると、ご意見頂いたような、時代に合わせながら柔軟に使い方を変えていけるようにしておく視点は、持続可能なまちづくりという面からも重要だと考えています。
- 真駒内駅は後背圏に様々な観光資源を有していることから、ご指摘の「交流人口」を生み出していける環境にあり、今回の駅前のまちづくりにおいてこの環境をより効果的に活かしていけるような視点を持ちつつ検討を進めてまいります。
- 南区には様々なものづくりをされている方がおり、新たな産業の創出に活かしていける素地があるものと認識しています。今後はハード整備だけでなく、これらを活かしていけるような、「仕組みづくり」が課題であると考えております。

第3回 真駒内駅前地区まちづくり検討委員会 書面会議

所属： 寿ハイヤー（株）

委員氏名： 三上 正志 委員

【報告事項】 真駒内中学校及び真駒内桜山小学校の一体整備について

- （特になし）

＜事務局＞

- （特になし）

【議題】 再編コンセプトの整理について

- 歩道橋か何かで平岸通を渡して、商業施設に行けるような動線を考えても良いのではないか。
- 高齢者のための施設も一部に入れつつ、子育て世代が通勤の行き帰りの時に真駒内で託児所など、色々なことが出来るようになると住みやすくなる。
- 将来形のコンセプトはこれで良いと思うが、タクシー事業者としては今をどうするかということも非常に重要。今はバスが並んでいて、車いす対応の福祉タクシーで降車が全くできない。
- 降り場の確保がタクシー事業者としての差し迫った課題である。

＜事務局＞

- 再編コンセプトのイメージに記載した大きな青矢印のとおり、駅から人をいかに誘導してくるかといった観点は民間の参入意欲を高める重要な要素になると考えております。その手法として、2階レベルでの接続について前回もご意見頂いていたところであり、次回以降の検討委員会で、駅から人を誘導する具体的な方法について、検討を深めていきたいと考えております。
- 子育て世代も含めた多様な世代に向けた魅力をつくっていく必要があると考えており、具体的な人々の生活スタイルを想定しながら検討していくことが重要であると考えております。
- タクシー降車場所については、喫緊の課題としてこれまでもご意見・ご要望を頂いておりました。これについては、効果的・効率的な公共投資となるよう、交通結節機能再編の将来形やそのスケジュール感を見極めたうえで、先行整備が可能かどうかについても併せて検討してまいりたいと考えております。

第3回 真駒内駅前地区まちづくり検討委員会 書面会議

所属： 千葉大学

委員氏名： 村木 美貴 委員

【報告事項】 真駒内中学校及び真駒内桜山小学校の一体整備について

- 学校については、将来の教室数の将来予測等を行いながら、用途転換の可能性も含めて検討が必要ではないか。

<事務局>

- 教室数については、児童生徒数の将来予測に基づき、必要と見込まれる数を整備することになりますが、予測を上回る児童生徒数の増減にも柔軟に対応できるよう、学校配置及び教室配置等を検討していきます（教育委員会）。

【議題】 再編コンセプトの整理について

- 地区の将来予測からすると人口減少と高齢化。将来の人口構造に適応した計画になっているか。子供以上に高齢者対応のまちに対応した計画の必要性があるのではないか。（札幌における高齢者の移動需要と移動傾向に鑑みた内容が必要ではないか）
- 例えば、健康寿命を延ばすための「歩く」が楽しくなる仕掛け。バリアフリーなど
- 災害時に活用できる施設を導入してはどうか（ブラックアウト時の電力供給など）
- スマートコミュニティと書かれているが、バス運行情報だけでスマート化といえるか？エネルギー利用のスマート化、MaaSなど郊外だからこそ必要とされる要素の検討があっても良い。

<事務局>

- 将来の人口減少・高齢化社会を見据えると、ご意見頂いたような、将来の人口構造に適応した計画にしておくという視点は、持続可能なまちづくりという面からも重要だと考えています。
- 前回お示ししたとおり、昨年実施した意識調査において、高齢者世代においても「生活利便の向上」を望んでいる傾向となっており、後背圏から自家用車に頼らず公共交通で生活利便機能へアクセスできるような環境を整えていくことが重要と考えております。
- また、この意識調査では、高齢者世代において特にバリアフリー等のニーズも高く、公共交通と併せて歩行者ネットワークについても整えていくことが重要と捉えております。
- スマートコミュニティについては、エネルギーの効果的・効率的利用を目的とし、既存地域熱供給の拡充や、更新される公共施設への低炭素エネルギーの導入、省エネルギー化等の在り方に関して、スマート化や災害に強いまちづくりも念頭におきながら検討を進めております。
こうした検討に加え、今後は、施設配置計画の検討経過、ICT技術の進展、社会動向等を踏まえ、地域の利便性向上などといった価値創出につながるスマート技術の展開について検討を進めてまいりたいと考えております。

第3回 真駒内駅前地区まちづくり検討委員会 書面会議

所属： (株) じょうてつ

委員氏名： 八島 弘樹 委員

【報告事項】 真駒内中学校及び真駒内桜山小学校の一体整備について

- 元々の土地（公共・民活エリア）だけでは少し物足りないと感じていたので、真駒内中学校が移転し、使用できる土地が広がることで可能性が広がると思う。

<事務局>

- 旧中学校エリアの土地利用については、これまでの議論や追加の民間事業者ヒアリング調査の結果等も考慮したうえで、公共と民間でどのように土地を使っていくのが良いか、次回の委員会において詳細に検討してまいりたいと考えています。

【議題】 再編コンセプトの整理について

- 再編コンセプトのイメージはこれまでの議論のまとめという印象。
- 真駒内に住んでいる人たちにきちんと納得してもらいながら進めることが重要である。
- バス路線沿線の人々の生活利便を支えるため、当社では国道 230 号線を経由する都心直行ルートと真駒内駅での地下鉄短絡ルートの2系統でアクセスできるようにしている。ただ、昨今の運転士不足の問題を考えると生活利便機能が真駒内駅周辺で充実できるのであれば、将来的にルートをある程度集約できるのではないかと考えている。
- 真駒内は交通機能に比べ生活利便機能が充足しておらず、本来のハブ&スポークになっていない。
- 当社では4月からバスロケーションシステムの運用を開始する。商業機能と交通結節機能の連携ということで考えれば、デジタルサイネージを活用して運行状況を表示する等、様々な可能性が広がる。
- バス乗り場は、現在よりも利便性を低下させてはいけないと考える。もし、駅前の平岸通を横断したところにバス乗り場を設置するのであれば、駅直結の空中歩廊で結ぶなど雨風をしのぐことができ、移動に負担のかからないプランを検討すべきである。

<事務局>

- 今後の高齢化を見据えると、自家用車に頼らず公共交通で生活利便機能へアクセスできるような環境を整えることが重要になると認識しており、昨今のバス事業の動向を踏まえると、南区民の生活利便を支える面での、真駒内駅前地区が果たすべき役割は大きくなるものと考えております。
- バスロケーションシステムについては、再編コンセプトのイメージに示す、「生活利便機能」と「交通結節機能」相互間のにぎわいや交流創出の可能性が高まるツールであると考えられます。これについては事業を進めていく中で、具体的に協議させていただきたい。
- 交通結節機能の再編にあたっては、目指すまちづくりの将来形と併せて、現在の利用状況や地域要望等も勘案しながら、総合的な視点から検討してまいりたいと考えております。

第3回 真駒内駅前地区まちづくり検討委員会 書面会議

所属： (一社) 定山溪観光協会

委員氏名： 山田 秀明 委員

【報告事項】 真駒内中学校及び真駒内桜山小学校の一体整備について

- (特になし)

<事務局>

- (特になし)

【議題】 再編コンセプトの整理について

- 真駒内地区は、近隣の自然環境もよく教育環境も良いと思う。
- 大規模な取り壊しや新築であるが、この環境に悪影響を与えないようにスピード感を持って、段取り良く進めてほしい。

<事務局>

- 基本方針1において「“地域独自の魅力を活かした特徴あるまち”の拠点」としているとおおり、他の地域交流拠点とは異なる真駒内らしさや特徴をどのように出していくかが重要であると考えています。施設配置計画においては、そのような視点も併せて持ちながら検討していくことが必要であると考えております。
- 真駒内地域はもとより南区全体として抱える、人口減少や少子高齢化等の地域課題は年々進行していくことが想定されることから、計画性を持ちながら着実に事業を進めていきたいと考えております。